木津 いにしえの息吹を体感する・・・

相楽神社 さがらじんじゃ MAP B-2

江戸時代までは八幡宮と呼んでいました。現在は、本殿（重要文化財）、末社５社、豊八稲荷社、拝殿、南北氏子詰所、社務所、客殿、四足門、鳥居等で構成されています。建立年代は詳らかでありませんが、様式手法から室町時代初期（南北朝）と見られ、よく時代を現しているといえます。また、和様の細部に対し唐様と大仏様の 手法を加えているところなど注目すべきものをもっています。

石のカラト古墳 MAP A-3

木津川市と奈良市の境、標高112mの丘陵緩斜面に築造された上円下方墳で、国の史跡に指定されています。立地から平城京遷都に関係する皇族の墓ではないかといわれています。

安福寺 MAP C-1

開基は「往生要集」を著した恵心僧都と伝えられています。平重衡（たいらのしげひら）命終の引導仏と伝えられる本尊「阿弥陀如来坐像」がある本堂は「袈堂（あわんどう）」と呼ばれ、境内には重衡供養塔と云われる「十三重石塔」があり、近くに重衡にかかわる「首洗池（くびあらいいけ）」や「不成桁（ならすがき）」もあります。

先人からの贈り物、その想いに触れてみる

大智寺 MAP C-2

奈良時代に行基によって木津川（旧名：泉川）に架けられた泉大橋は、後に流れ落ちましたが、鎌倉時代に至って、残っていた橋柱から文殊菩薩を刻みだし、伽藍を建立して安置したのが現在の大智寺の前身の橋柱寺と言われています。その後衰退しますが、寛文9年(1669) 東福門院の下賜によって本寂が中興、橋柱山大智寺と改号しました。

◆大智寺 伽藍（府登録文化財）
南山城地方で江戸時代中期（寛文期）の伽藍がこれだけ残るのは貴重として登録文化財となりました。木津川左岸の泉大橋の南に伽藍を構え、境内は西に山門、山門からの参道正面に西面して本堂、参道の北側に鐘楼堂、本堂北側からの渡り廊下で接続された庫裏が南面して配置される構成となっています。

◆大智寺 十一面観音立像（重要文化財）
平安時代の10世紀末に作られた像高109.1cm、一木造の像です。穏やかな表情、腕刻（わんせん/腕師）を一木から刻みだし、体に内刻（うちぐり）もない点に古様が認められます。

◆大智寺 文殊菩薩坐像（重要文化財）
鎌倉時代、弘安(1278～1288)年間に作られた高さ 65.2cmの寄木造の像です。唐風の服をまとい、左手に経巻をのせた蓮華を、右手に宝剣を持ち、左足を垂らし獅子の上の蓮華座に坐っています。

本殿（重要文化財）

時をへて伝む、遺産、いにしえを訪れる

岡田国神社 MAP C-2

旧社殿は舞台を中心に拝殿・氏子詰所を配する相楽郡地域に伝わる社殿配置形態をとどめています。室町時代の想の社の姿を伝える重要なものです。

旧社殿（府登録文化財）

拝殿

鹿背山 西念寺 MAP D-1

縁起や棟札によれば、百済の僧がこの地で修行し、後に行基が堂塔を整備して鹿山寺とし、薬師如来を本尊としました。元禄６年(1693) に西念寺と名を改めました。

◆西念寺 薬師如来坐像（府指定文化財）
薬師堂の本尊です。平安時代後期、12世紀前半に作られたものです。右手を施無畏印とし、左手に薬壺をとる通例の姿ですが、製作技法は一木割矧造という特殊なものとなっています。台座は上から蓮華・束・華盤・敷茵子・受座・反花・蛤座・二段框（隅足付き）という九重蓮華座で、当初からのものです。

A
B
C
D
1
2
近鉄奈良線
JR 奈良線
JR 関西本線
JR 片町線
JR 学研都市線
JR 奈良線
JR 関西本線
JR 学研都市線
JR 奈良線
JR 関西本線
JR 学研都市線
JR 奈良線
JR 関西本